

会議名	平成29年度第3回西尾市図書館協議会
日時	平成30年1月19日（金）午後3時～午後3時45分
場所	一色支所 会議室
出席者	尾崎会長、赤堀副会長、石原委員、鳥山委員、伊奈委員、山下委員、大須賀委員
市係等出席者	岩瀬教育部長、今井図書館長、原田館長補佐、生田主任主査
<p>協議会の中で出されたことは以下のとおり。</p> <p>1 あいさつ 尾崎会長</p> <p>2 議題</p> <p><b>(1) 西尾市立一色学びの館の運営について</b></p> <p>西尾市立一色学びの館の運営について、今井館長より説明。</p> <p>一色学びの館は、西尾市一色町公民館、西尾市一色地域交流センター、子育て・多世代交流プラザ（旧一色町生きがい健康センター）の3館を改修し、各施設の魅力を向上させ、市民の皆様が、様々な形で学び・つどい・憩える、にぎわいのある街づくりの拠点となるべく「一色地域交流広場」として3館の包括的管理運営を行っていく。</p> <p>開館時間と休館日については、一色学びの館は、午前9時から午後7時まで、本館と同じとなる。休館日は月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始、特別整理期間となる。</p> <p>また、この3館の名称はこれまで公共施設再配置第1次プロジェクトでは、「いっしき市民交流広場（仮称）」と言っていたが、一色地区を、「自然と文化と人々がとけあい、心豊かに暮らせるまち」として、市民の皆様とともに目指していく、また、旧一色町時代の名称である「一色地域文化広場」が市民に浸透し、親しまれていることから、「一色地域文化広場」を全体的な名称としていく。</p> <p>一色学びの館の概要としては、図書館機能として、「西尾市教育振興計画」「西尾市子ども読書活動推進計画」に沿い、市民が利用しやすい地域の図書館として、また大人も子どもも楽しめる「絵本館」の特性を持ち合わせた西尾市立図書館の分館として公共図書館サービスを提供していく。</p> <p>また、資料館機能として、ちょうちんのある展示スペースを活用し、西尾市の文化・祭礼・芸能を紹介し、来館者自らが考え発見する楽しさを体験でき、地域により愛着と誇りを持てるよう企画展示等をしていく。</p> <p>配置として、1階は、絵本と暮らしのフロアとして、児童書・絵本を中心に、子育て世代が子ども連れでも自身の情報収集をしやすいように、暮らしや育児に関する一般図書や雑誌を配置していく。</p> <p>また、建物南のテラスに面した幼児開架は、定例おはなし会の会場としても活用していく。2階は、郷土資料と知のフロアとして、郷土資料、一般図書、辞典類、</p>	

中高生向け図書、視聴覚資料を配置し、レファレンスカウンターも設置し郷土に関する情報提供、生活に必要な情報等様々な調べものや調査研究をお手伝いしていく。

一色学びの館の施設の管理及び運営については、「新たな官民連携手法（西尾市方式）による公共施設再配置第1次プロジェクト」の特定事業契約により、市議会3月定例会の議決を経て、契約相手である「株式会社エリアプラン西尾」を指定管理者に指定して実施する予定である。

指定管理者が行う業務は、吉良図書館・幡豆図書館の業務委託と異なり、図書館の設置及び管理に関する条例に基づき、定めている。

内容としては、

- ① 図書を収集し、整理し、保存すること  
ただし、図書の収集及び廃棄に係る決定は市が持つ。
- ② 図書を一般公衆の利用に供し、図書館等を利用する者の相談に応ずること  
読書相談やレファレンス
- ③ 読書会、研究会等を主催し、その奨励を行うこと
- ④ 館報、目録その他読書資料を発行し、頒布すること
- ⑤ 読書会及び図書に関する講演会、研究会、講習会等のための会場を提供すること  
図書や作家に関する情報を市民の皆様知らせ、読書活動への働きかけをする
- ⑥ 他の図書館及び社会教育施設と協力すること  
本館や分館との連携を図る
- ⑦ 図書の複写手数料の収受に関する業務
- ⑧ 利用の許可に関する業務
- ⑨ 図書館等の施設及び設備の維持管理に関する業務（展示棟を含む）
- ⑩ その他教育委員会が必要と認める業務

を行う。この中では、利用の許可に関する業務の施設の使用許可等は業務委託では受託者はできないこととなる。

なお、具体的な業務仕様書や平成30年度事業計画は、4月運営開始に向け、現在、業者と調整している。

**質問** 1月1日号の市の広報では、仮称でいっしき市民交流広場とあったがどうか。

→ 広報に記事が出た際はまだ仮称ですすんでいたが、その後に調整がされ、この3館と公園を含めた名称を一色地域文化広場という方向で決定された。それぞれの館が機能を持ちながら包括的に運営をし、一色地区を盛り上げていく。

**質問** 業務委託するのは、一色地域文化広場全部か、それとも学びの館だけか。

→ 指定管理の運営になるのは、一色地域交流センターも含めた4館すべてである。制度的な問題で、1館1館議会で承認をもらうが、全部一緒に指定管理になる。

**質問** PFIなので、ずっとそうか。指定管理は一般的に3年とか5年だが、もっと長いのか。

→ はい、13年間です。

**質問** 最初は30年だったのが、短くなったんだね。

→ はい。

**質問** （13年間の）途中は、その都度、運営の仕方について、市の方で市民の声を聞き

ながらやっていくのか。

→そこは厳格にモニタリングというのをやり、業者自身が自分の事業を評価してやるモニタリングと、それを受けて市は、適切にきちっと行われているかを見ていき、やられていなければ、まずは指導して措置を取っていく。それでもだめな場合は、業者の方をもう少し検討しなさいというような形に、それは契約でうたっているが、市で常に見ていくという体制をとっていく。

一年間のうちでも、モニタリングは4回行い、年度末には全体のモニタリングを行っていく。

**質問** エリアプラン西尾が、一色地域文化広場全体を見ていくということによいか。

→はい。

**質問** 交流センターという位置づけだが、どこの町に行っても市民によく活用されている。今回、図書館はこの中の一部に組み込まれているということで、図書館が何かイベントを企画した時には、相互間で交流センターのホールを借りるということも可能なのか。絵本を主にやるというのが特色を活かしていろいろな企画をやるときに、図書館では手狭なので、そういったことをここでやるということも検討されるのか。

→はい、図面を見ていただくとわかるが、学びの館には会議室がないので（そうになっていく）。

**意見** そういうことなら、活用としてはすごくいいことだと思う。

→今まで学びの館の2階に会議室があったが、そこに一般図書コーナーができていて、そういったことは3館で包括的にやっていくということになる。

**質問** 今まで、子育て支援センターは子育て支援課、図書館は教育委員会、というような、内容的に共通があると言えばあるが、根本的に違うところもあるような気がするので、そういうところが、一括でエリアプラン西尾がやったときに、市として目を光らせるところはどこになるのか。

→それはそれぞれの部署、学びの館の図書館部分は図書館、提灯の部分は文化振興課、公民館は生涯学習課が指導し見ていく。

**質問** 今までは縦割りのため、ちょっとこっちの場所を貸してくださいと言ってもなかなか許可が下りなかったが、そういったことが、3館、4館が包括されていればできるということか。

→はい。

**質問** 運営していくとなると、人的配置は、エリアプラン西尾が人事権を持っているのか。

→ここで働く人の人事権はそうである。

**質問** その業者が人を募集するのか。

→はい。

**意見** 市の関係する人が入れるとは限らないのだね、面接があるんだね。

→はい。

**意見** こういう風にやっていきたいと言っても、人事権を握っているところが、それは会社の方針と違うと言われるとやりにくいところが出てこないか。

**意見** それは始まってからいろいろ希望を出しながらやっていっていけばよいと思う。

**質問** 今後、おはなし会の相談はエリアプラン西尾の人とすればよいのか。学びの館の中

に事務所みたいな場所はあるのか。

→ 学びの館の中には事務室的なところがなくて、作業室としての場所が一番南側、裏口から入ってすぐにあるが、その場所が事務室的なところになる。

**質問** そこには電話も置かれるのか。

→ はい。

**質問** カウンターにいる人と相談することになるのか。年間計画については図書館に相談があり、それから先のことは業者が運営していくということでしょうか。

→ はい、業者と事業の調整を図っていくということになる。

**質問** 私たちはそれのお手伝いをしていくということでしょうか。4月からのことについては、具体的にいつおはなし会をやるというようなことは、私たちも含めこれからやっていくのか。

→ はい、調整が遅れているが必ずある。

**質問** 大々的なオープン行事がありますか。

→ 少しずつ案は出てきている。(その行事が) 4月1日かということ、少しずれるかもしれない。

**意見** 地元の人たちは大いに関心があると思う。

**意見** 大勢の市民が関わるようなことであると、この先が明るい未来になっていくと思う。

**意見** 広報に載った名称と、今決まった名称が違うということからして、なぜこんなことになってしまったのか、そのあたりを考えると、あれっと思ってしまう。

→ 広報掲載の記事の原稿出しが先行していて、まだいろいろ決まっていなかった時期であったため、ずっと仮称としてすすんでいた。それが最近になってこれに決まった。

**意見** (名称が) 文化広場だよ、文化には、継承するという意味と広めるという意味がある。いろいろな建物があるが、その中で利用カードを統一してほしい。そうすれば、図書館もそのカードで入れれば利用者数も上がっていくのではないかと思う。皆さんカードは2枚も3枚も必要ないので、一つに統一していただけたらいいと思う。

資料館機能の言葉「海と生きる」などがすごくいいと思う。茨木のり子さんの詩集「寄りかからず」の中の「時代遅れ」という詩が好きなのだが、最先端のものを常に追うのではなく、古いもの、そういった時代も温かみがあり、そういう生き方もあるという詩なのだが、これが資料館機能のところにも色々なものが、海において、自然において出れば、AIといった最先端で市民の利便性を上げるということもいいが、その逆のこと、ローリングバックしていく部分があってもいいのではないかと思う。そういったものを折衷して運営していくと非常にいいのではないかと思う。せっかく海に近く、自然が良いところなので、本館とはまた違ったようにやられるといいのではないか。

**質問** 今言われた利用カードだが、私は図書館の利用カードしか持っていないのだが、ほかのところでもカードが必要なのか。

→ 公民館は施設を利用するにあたって、活動している団体の登録が必要である。個人の利用と性質が違ったカードの発行になっており、それぞれの条例や規則に示されていて管理の仕方が違うため、どのように調整できるか検討課題となる。

**質問** では、団体の長となる人はそのカードが必要になるのか。

→ 予約をするときにそのカードを見せないといけない。ただ、西尾市全部の公民館は共通カードなので、1枚持っていればよい。それは個人では持てなくて5人以上の何かをしているグループでないといけない。

**質問** 図書館のカードは共通だね。

→ はい、今まで通りです。

**質問** 今まで学びの館に入っていた業者はエリアプラン西尾とは全く関係ないのか。

→ はい。業者が募集していくが、図書館勤務の経験がある人の配置をとということをこちらからは要望しているので、どこかで見かけた人がいるということも十分あり得る。

**意見** いろいろな図書館のトラブルや利用者の声を聞いていると色々あるので、直営の方がいいなとずっと思っている。今までのところが入ってくれると思っていたので心配していなかったが、今、違うと聞いて、えっと思っている。顔なじみの人がいると利用者も（気軽に）聞けるし、利用しやすいので、できれば一色で働いていた人を優先的に、ということができないか。

**意見** 学びの館は図書が主力だから、面接のときに、たとえば図書ボラ経験者かというような質問をしてもらって、そういう人が入れば、読書に興味関心があるからうまくいくのではないか。

**質問** 今委託されているところは全部ご破算で、この人たちが募集をかけていくということだね。同じ人が応募するかはわからないね。

→ 一色学びの館は今年の8月末で業務委託が終わっているので、継続という形ではない。

**質問** この施設の名前はもうこれで決定なのか。図書館という名前がない。子育て・多世代交流プラザとかは名前が長すぎるしカタカナが入っていたりで、ついていけない。地元の人が、ここはこういう施設だという雰囲気がかめないといけない。

**意見** 一色学びの館は前からずっとこの名前だった。

**質問** 先ほど、図書の廃棄は図書館でチェックするとお聞きしたが、新しく購入する本は業者が選ぶのか。

→ その利用者のニーズを反映させるために仮選書を業者が行うが、市の方で中身チェックをし、承認したものを購入していってもらう。

**意見** ツタヤはあちこちに書店がありおもしろいが、図書館に入っているところはいろいろな内情の問題が話題になっているので、心配する。本屋で喫茶店併設なのはとてもおもしろいし色々なところがあるので、そこを回ると良いのだが。しっかりチェックしてほしい。

### (3) その他

・事務連絡

・部長あいさつ 後閉会